

知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌）

pL^AT_EX 2_ε クラスファイル jjsftii.cls の使い方[†]

山田 太郎^{*1}・山田 次郎^{*2}・山田 三郎^{*3}・東大 四郎^{*3}・山田 五郎^{*1}・山田 六郎^{*1}・
山田 七郎^{*1}・山田 八郎^{*1}・山田 九郎^{*1*2}・山田 十郎^{*1*2*3}

このドキュメントは、知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌）pL^AT_EX 2_ε クラスファイル jjsftii.cls を用いた論文の執筆方法をまとめました。

キーワード：pL^AT_EX 2_ε, ε-T_EX 拡張, DVIPDFMx

1. 動作環境

知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌）pL^AT_EX 2_ε クラスファイル jjsftii.cls 2016/07/25 v1.1 の動作環境は、おおむね T_EX Live 2012 以降（または、これに準ずる適当な T_EX ディストリビューション）の pL^AT_EX または upL^AT_EX が必要です。T_EX Live 2012 よりも古い環境に含まれている pL^AT_EX, upL^AT_EX は ε-T_EX 拡張が追加されていないため、jjsftii.cls が動作しません。

2. タイプセット

jjsftii.cls を用いた L^AT_EX 文章ファイルは、platex, upl^Atex コマンドのどちらでもタイプセットできます。例えば、以下を実行すると、foo.tex から foo.pdf を得られます。

```
$ uplAtex foo
$ dvipdfmx foo
```

3. 雛形の L^AT_EX 文章ファイル

jjsftii.cls を用いる L^AT_EX 文章ファイルの雛形は、以下のとおりです。

- template-jjsftii.tex：日本語向け
- template-jjsftii-en.tex：英語向け

これらの雛形を論文執筆の際にご利用ください。また、本ドキュメント readme-jjsftii.tex も一つの雛形としてご参考ください。なお、これら雛形の L^AT_EX 文章の文字コードは UTF-8 です。必要に応じて、ファイルの文字コードをご変更の上、

ご利用ください。

4. プリアンブル部

論文に必要な情報は、L^AT_EX 文章ファイル中のプリアンブル部（\begin{document}より前）にすべて記述します。これらの情報を元に、タイトル、問い合わせ先、著者紹介、英語 summary などを出力します。

なお、本ドキュメントは、とくに断らないかぎり、日本語で論文を書くことを前提としています。

4.1 日本語、英語

日本語で論文を書く場合、以下のようにクラスファイルを指定します。

```
\documentclass{jjsftii}
```

一方、英語で論文を書く場合、以下のように english オプションを付加してクラスファイルを指定します。

```
\documentclass[english]{jjsftii}
```

4.2 最終原稿投稿

初回投稿の際には、著者情報や問い合わせ先などを出力しません。最終原稿投稿の際に、以下のように finalsubmit オプションを付加してクラスファイルを指定すると、著者情報や問い合わせ先などを出力します。

```
\documentclass[finalsubmit]{jjsftii}
```

4.3 原稿種

投稿を希望される原稿種として、「原著論文」、「総説論文」、「実践研究論文」、「ショートノート」のいずれかに該当する原稿種を入力してください。

```
\ArtType{原著論文}
```

4.4 タイトル

日本語と英語のタイトルを書きます。

- \titleja{日本語タイトル}
- \titleen{英語タイトル}

[†] How to Use the pL^AT_EX 2_ε Class File (jjsftii.cls) for Journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics
Taro YAMADA, Jiro YAMADA, Saburo YAMADA, Shiro Todai,
Go YAMADA, Rokuro YAMADA, Shichiro YAMADA,
Hachiro YAMADA, Kyuro YAMADA, and Jyuro YAMADA

*1 山田大学大学院工学研究科
Graduate School of Engineering, Yamada University

*2 山田大学工学部
Faculty of Engineering, Yamada University

*3 東京大学大学院工学系研究科
School of Engineering, The University of Tokyo

4.5 問い合わせ先

問い合わせ先情報を書きます。必要に応じて、メールアドレスや電話番号も書きます。

- `\contactnameja{氏名}`
- `\contactnameen{Your name}`
- `\contactaddressja{住所（日本語）}`
- `\contactaddressen{住所（英語）}`
- `\contactemail{メールアドレス}`
- `\contactphoneja{0 電話番号}`
- `\contactphoneen{+81-電話番号}`

4.6 著者情報

全員分の著者情報は以下のような形式でプリアンプル部に記述します。

%% 筆頭著者

```
\begin{author}
\項目 1{項目 1 の情報}
\項目 2{項目 2 の情報}
...
\end{author}
%% 2 番めの著者
\begin{author}
\項目 1{項目 1 の情報}
\項目 2{項目 2 の情報}
...
\end{author}
...
```

記述可能な項目は以下のとおりです。

- `\nameja{苗字_名前}`：苗字と名前との間に、半角空白「`\` 」を入れて下さい。
- `\nameen{苗字_名前}`：日本語と同じく、苗字と名前との間に、半角空白「`\` 」を入れて下さい。
- `\furigana{みょうじ_なまえ}`：`\nameja{苗字_名前}`に対するふりがなを書きます。「みょうじ」と「なまえ」との間に、半角空白「`\` 」を入れて下さい。
- `\membership{〇〇会員}`：会員の種類を書きます。項目 `\membership` を挿入しないとき、非会員（初期値）となります。
- `\faceimage{顔写真の画像ファイルへのパス}`：顔写真の画像ファイルへのパスを書きます。項目 `\faceimage` を挿入しないとき、「著者紹介」内の顔写真が空となります。
- `\address{ラベル}{住所（日本語）\住所（英語）}`：所属先の住所を書きます。複数の所属先がある場合、複数の `\address`、`\addressref`（後述）を列挙してください。
- `\addressref{ラベル}`：相互参照したい所属先を書きます。`\address` と同じく、複数の所属先がある場合、複数の `\address`、`\addressref` を列挙してください。
- `\profile{経歴}`：経歴を書きます。

4.7 概要、キーワード

概要、キーワードは、以下のようにそれぞれ日本語と英語で

書きます。

```
\begin{abstract}
ここに日本語で概要を書きます。
\end{abstract}
\begin{abstracten}
Please write an abstract here.
\end{abstracten}
\begin{keywords}
キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3
\end{keywords}
\begin{keywordsen}
keyword1, keyword2, keyword3
\end{keywordsen}
```

5. 本文部

`\begin{document}`直後に`\maketitle`を書き、タイトルを出力します。これ以降、問い合わせ先、著者紹介、英語 `summary` を出力する`\makesummary`、`\end{document}`までの間、通常の `LATEX` 文章と同様に論文を書きます。

以下に、各種見出しの例を示します。

6. 例：節

```
1 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
2 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
3 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
```

6.1 例：小節

```
1 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
2 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
3 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
```

6.1.1 例：小々節

```
1 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
2 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
3 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
```

例：段落

```
1 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
2 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
3 □□□□□□□□■□□□□□□□□■□□□□□□□□
```

謝辞

謝辞を挿入したい場合、`\acknowledgment` コマンドをご利用ください。

参 考 文 献

- [1] 文献 1
- [2] 文献 2
- [3] 文献 3

(0000 年 00 月 00 日 受付)
(0000 年 00 月 00 日 採録)

付録

付録を挿入したい場合、`\appendix` コマンドをご利用ください。

以下に、付録における各種見出しの例を示します。

A. 例：節

- ① □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ② □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ③ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□

A.1 例：小節

- ① □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ② □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ③ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□

A.1.1 例：小々節

- ① □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ② □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ③ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□

例：段落

- ① □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ② □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□
- ③ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□ ■ □□□□□□□□


B. 問い合わせ先, 著者紹介, 英語 summary

`\end{document}`直前に、問い合わせ先、著者紹介、英語 summary を出力する `\makesummary` を書きます。

[問い合わせ先]

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-29
 虎ノ門産業ビル 4F
 富士技術出版株式会社

—— 著 者 紹 介 ——



やまだ たろう
山田 太郎 [非会員]

経歴を書きます。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。

やまだ じろう
山田 次郎 [正会員]

顔写真がない場合、このようになります。2016年山田大学工学部卒業。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ きぶろう
山田 三郎 [非会員]

2016年東京大学大学院工学系研究科修了。現在、同大学大学院工学系研究科在学中。山田電気電子通信学会などの会員。



とうだい しろう
東大 四郎 [名誉会員]

2016年東京大学工学部卒業、同年東京大学大学院工学系研究科修了。現在、同大学大学院工学系研究科在学中。山田電気電子通信学会などの会員。



やまだ ごろう
山田 五郎 [サイト会員]

1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ りくろう
山田 六郎 [学生会員]

1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ しちろう
山田 七郎 [特別会員]

1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ はちろう
山田 八郎 [購読会員]

1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ きゅうろう
山田 九郎 [法人会員]

1999年山田大学大学院工学研究科修了。現在、同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会などの会員。



やまだ じゅうろう
山田 十郎 [準会員]

1999年山田大学工学部卒業，同年山田大学大学院工学研究科修了，同年東京大学大学院工学系研究科修了。現在，同大学大学院工学研究科在学中。山田電気学会，山田電気電子通信学会などの会員。

**How to Use the p^LA^TE^X2_ε Class File (jjsftii.cls)
for Journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics**

by

**Taro YAMADA, Jiro YAMADA, Saburo YAMADA, Shiro Todai, Go YAMADA, Rokuro YAMADA, Shichiro YAMADA,
Hachiro YAMADA, Kyuro YAMADA, and Jyuro YAMADA**

Abstract:

Please write an abstract here. The quick brown fox jumps over the lazy dog. The quick brown fox jumps over the lazy dog. The quick brown fox jumps over the lazy dog. The quick brown fox jumps over the lazy dog. The quick brown fox jumps over the lazy dog.

Keywords: p^LA^TE^X2_ε, ε-^TE^X extension, DVIPDFMx

Contact Address: **Fuji Technology Press Ltd.**
1-2-29, Toranomom, Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan
4F Toranomom Sangyo Bldg.